



診療内容

甲状腺は首の前にあるホルモンを産生する臓器です。代表的な疾患としては、自己免疫疾患であるバセドウ病、甲状腺機能低下することのある橋本病、良性疾患である腺腫様甲状腺腫、悪性疾患である甲状腺がんがあります。

●バセドウ病は甲状腺機能が亢進するため薬の治療が必要です

多くは甲状腺機能が亢進する病気です。甲状腺ホルモンの分泌が過剰になることにより、身体の代謝が盛んとなり、次のような症状が現れます。動悸、息切れ、発汗、暑がり、指のふるえ、食欲亢進、体重減少、疲労感など

＜治療＞甲状腺ホルモンを抑制する抗甲状腺薬（メルカゾールなど） 肝機能障害、白血球減少、アレルギーといった副作用の有無を確認するため、内服開始後2か月間は2週間ごとに通院が必要です。

●橋本病（慢性甲状腺炎）では甲状腺機能低下し補充が必要なことがあります

甲状腺に慢性の炎症がおきる病気です。機能に異常のないことも多いですが、甲状腺機能が低下すると以下のような症状が現れることがあります。

全身倦怠感、寒がり、体重増加、気力の低下、声のかすれ

＜治療＞甲状腺ホルモン（チラーゼン）の補充療法

●腺腫様甲状腺腫は、よく見られる甲状腺の良性腫瘍で、超音波検査と採血で経過観察します

甲状腺が育ち過ぎた状態で、甲状腺に良性の腫瘍（こぶ）ができます。超音波検査で見つかった腫瘍はがんではないことを確認するため、必要に応じて細胞診を行います。こぶのでき方によって、甲状腺全体が腫れたように見えることもあります。1～2年に1回大きくなっていないか、数が増えていないか超音波検査で経過観察します。



■腺腫様甲状腺腫/甲状腺内部を超音波検査で観察します

●甲状腺がんが見つかったら基本的に手術による治療が必要です

甲状腺がんはがんのなかでは比較的増殖が遅いですが、中には放置すれば大きくなり、転移するものもあるので手術による治療が基本です。甲状腺がんの多くは乳頭がんに分類されますが、稀により進行のはやい、濾胞がん、髄様がん、未分化がんなどがあります。

＜治療＞手術など

当施設では、経験を積んだ専門の医師が甲状腺超音波検査、甲状腺細胞診を行い上記の疾患やそのほかの甲状腺疾患の診断、治療を行っています。手術などの治療が必要な際には速やかに甲状腺外科に紹介いたします。甲状腺がはれている気がする、甲状腺機能低下、亢進症状がある、健診でしこりが見つかった等の症状があればご相談ください。

■施設認定

日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設



■腺腫様甲状腺腫/甲状腺がんが疑われる場合など、必要に応じて細胞診を行います。